



菅生学園初等学校だより

2021年度2月号
校長室だより

VUCA時代への対処方法とは・・・？

正月が明けたと思ったら、早や一か月余りが経過しました。やっかいなことに、再びコロナウィルスの感染拡大が起こっています。いわゆる第6波の到来です。年末には感染者数も落ち着いていましたので、年初は恒例の七福神巡りを再開しました。今年は池上七福神。日蓮宗の池上本門寺のおひざ元をのんびりと正月気分になりながら歩いてみました。全行程5Kmくらいでしたので、新年のウォーキング初めとしては適度な距離でした。午前9時にスタートしましたので、比較的人もまばらで、江戸の風情を楽しみながらとても気分の良い新年のスタートでした。甘酒をふるまわれたり、七番目の養源寺では恵比寿さまの扮装をしたお寺の方と写真などを撮らせていただいたりと幸せな一時でした。



正月も明け、予想はされていたものの、あまりにも急激なコロナウィルスの感染拡大に驚愕しています。学校では、これまで以上にお子さまたちの安全を最優先にしつつ学びを止めない姿勢で対応してまいります。また、トンガでの海底火山の噴火による影響で日本も津波警報が長時間にわたって出され続けるといった異例の事態が起きました。トンガでは15mもの津波が押し寄せた場所もあったとのこと。日本でも太平洋岸では津波の影響で漁船が転覆したりしている様子が報道されておりました。トンガの方々の被害が最小限にとどまっていたほしいと祈らざるを得ません。この2つの事象だけを捉えても昨今はVUCAの時代です。

VUCAとは・・・？

V (Volatility: 変動性) U (Uncertainty: 不確実性)

C (Complexity: 複雑性) A (Ambiguity: 曖昧性) の4つの言葉の頭文字をとったもので、1990年代から使われ始めた軍事用語のようです。2010年頃からはビジネス用語としても使われ始めました。まさに変化が目まぐるしく、先行き不透明な時代を表す言葉です。今回の2つの事象こそVUCA時代の典型例です。こんな時代の生き方は、20世紀に比べて少々難解だと考えます。

1 観察する。(実際の生のデータを集める。) 2 状況を理解する。(集めたデータを基にして何が起きているのかを正確に把握する。) 3 決断をする(把握した事態への具体的施策を考え決める。) 4 動く。(具体策を実行に移す。) の4つを丁寧に繰り返すことにその対処方法は尽きるのではないのでしょうか。

特に21世紀を生きるお子さまたちは、これら一連の対処方法を十分に習得する必要があります。特に重要なのはデータにより何が起きているのかを把握する力だと思います。知識から思考へ発展させる力の養成がその礎なのだと感じます。指導をする教職員側も十分にそれを理解しておく必要があると痛感する今日この頃です。

Down with covid19!